

帰宅困難者一時滞在施設 運営講習会進行資料

2019.10.16

新宿駅周辺防災対策協議会

本日の内容

時刻	所要時間 (分)	内容	担当
13 : 30～13 : 35	05	あいさつ、趣旨説明	新宿区 / 協議会
13 : 35～14 : 00	25	19年度訓練について	SOMPO-RC
14 : 00～14 : 05	05	移動	
14 : 05～14 : 20	15	マニュアル、キット等の概要説明	SOMPO-RC 等
14 : 20～14 : 30	10	休憩	
14 : 30～14 : 40	10	参加者団体自己紹介	各社1名
14 : 40～15 : 40	60	図上演習①施設開設の準備 ②一時滞在施設の運営	SOMPO-RC
15 : 40～16 : 20	40	11/8訓練用レイアウト決定、気づきの共有	SOMPO-RC
16 : 20～16 : 30	10	事務連絡、アンケート記入、閉会	新宿区 / 協議会

マニュアル、キット等の概要説明

1. 一時滞在施設運営マニュアルについて
2. キットについて
3. 帰宅困難者支援施設運営ゲームについて

1. 一時滞在施設運営マニュアル

帰宅困難者一時滞在施設運営マニュアル

(標準版:2019 年訓練用(案))

2019 年 5 月 (仮)

新宿駅周辺防災対策協議会

目次

1 基本事項	1
1.1 目的	1
1.2 運営手順の構成	1
1.3 対象とする帰宅困難者	1
1.4 検証・更新	1
2 運営体制	2
2.1 運営組織の体制 (例)	2
2.2 各係の役割 (例)	2
3 一時滞在施設の開設にあたって (平常時の準備)	3
3.1 施設開設計画	3
3.2 受入のための環境整備	6
3.3 施設閉鎖	7
4 新宿ルール実施のための行動指針に基づく主要拠点等の行動	8
5 一時滞在施設の運営手順	11

マニュアルは、大きく下記の3パートで構成されています。

各行動の手順等

帳票等

[illegible]

Figure 1 illustrates the hierarchical structure of the Japanese Corporate Governance Code (JCGC) and its relationship to the Japanese Company Law (JCL). The diagram shows a series of nested boxes representing different levels of governance, from the JCL at the top to the JCGC at the bottom. The JCL is the foundation, and the JCGC is built upon it. The JCGC is divided into two main parts: the 'Principles' (Principles of Corporate Governance) and the 'Guidelines' (Guidelines for Corporate Governance). The 'Principles' are further divided into 'Basic Principles' and 'Advanced Principles'. The 'Guidelines' are divided into 'Basic Guidelines' and 'Advanced Guidelines'. The diagram also shows the relationship between the JCGC and the JCL, indicating that the JCGC is a set of principles and guidelines that guide the implementation of the JCL. The diagram is color-coded, with blue representing the JCL, green representing the JCGC, and red representing the 'Principles' and 'Guidelines' sections.

[illegible]

一時滞在施設での行動の手順が記載されており、施設管理者等が各行動の指揮をとるために用いる。

手順に沿って、一時滞在施設内で掲示等するための帳票類。

2. マニュアルの構成について(2/2)

一時滞在施設の運営マニュアルは、次の8つの行動で構成されています。

(1) (施設の)安全確認

(2) 運営要員の参集

(3) 帰宅困難者の受入準備

(4) 施設の開設・受入

(5) 帰宅困難者対応

(6) 施設の運営状況等の現地本部との共有

(7) 交通機関の再開状況の共有

(8) 閉鎖準備・閉鎖

3. 行動指針とマニュアルの関係(マニュアル間の関係)

マニュアルは単独で作成されているのではなく、「新宿ルール実践のための行動指針」に基づき、他の拠点における「行動」や想定される「行動」と整合をとって作成されています。

新宿ルール実践のための行動指針に基づく各手順書に定めるべき事項とその関係							
局面	滞留者の行動	一般事業者の行動	東西現地本部の運営	避難場所への誘導	避難場所の運営	一時滞在施設への誘導	一時滞在施設の運営
発災 フェーズ①	各自で身の安全を確保する。				< 凡 例 > ■ 手順書に定めるべき事項 ■ 手順書に定めるべき事項 (継続して実施する項目) ■ 他の手順書等と整合性を確保する必要がある事項		
	今いる場の施設管理者の指示に従う。	身の安全の確保を呼びかける。					
		建物の安全確認を行う					建物の安全確認を行う ⇒「01 安全確認」参照
	今いる場所の建物の安全が確保されなかった場合						
	施設管理者の指示に従い避難する。	継続使用不可能の疑いがあれば屋外へ避難させる。	東西現地本部要員が参集を始める。	避難場所への案内表示の準備を行う。	避難場所において滞留者対応の準備を		
			東西現地本部の開設準備を行う。	避難場所への案内表示を行う。			
	身の寄せ所のある滞留者に対して						
	行き場のある滞留者は待機する。	滞留者を保護する。	新宿区に現地本部の立ち上げの連絡を行う。		避難場所において滞留者対応を開始する。		
					避難場所の滞留状況を把握する。		一時滞在施設の開設を判断する。
		自事業所付近の滞留者を避難場所に移動する					一時滞在施設の運営要

一時滞在施設の運営手順書はこの部分

4. マニュアルにおける「行動」について

マニュアルは、全体の流れを踏まえて、赤枠で囲まれた「行動」毎に作成されています。
 なお、各「行動」が行動指針のどの局面(フェーズ)にあたるか目安がしめされています。

新宿ルール実践のための行動指針に基づく各手順書に定めるべき事項とその関係							
局面	滞留者の行動	一般事業者の行動	東西現地本部の運営	避難場所への誘導	避難場所の運営	一時滞在施設への誘導	一時滞在施設の運営
フェーズ②	行き場のある滞留者は待機する。	滞留者を保護する。	新宿区に現地本部の立ち上げの連絡を行う。		避難場所において滞留者対応を開始する。		
					避難場所の滞留状況を把握する。		一時滞在施設の開設を判断する。
		自事業所付近の滞留者を避難場所へ移動するよう促す。					一時滞在施設の運営要員が参集する。
	連絡先		関係各拠点との通信連絡手段を確保する。				⇒「02 運営要員の参集」参照
		軽微な被害発生					一時滞在施設の運営本部を設置する。
		準備完了					受入スペース、立入禁止区域等を設定する。
							施設の開設に最低限必要な資機材等を準備する。
		事業所の周辺の滞留状況を現地本部と共有	地域内の滞留状況の把握	避難場所への動線の混雑状況等を現地本部と共有	避難場所の滞留状況等を現地本部等と共有する。		受入の準備が整ったら、施設の開設を判断する。
			状況を踏まえた誘導の				⇒「03 帰宅困難者の受入準備」参照

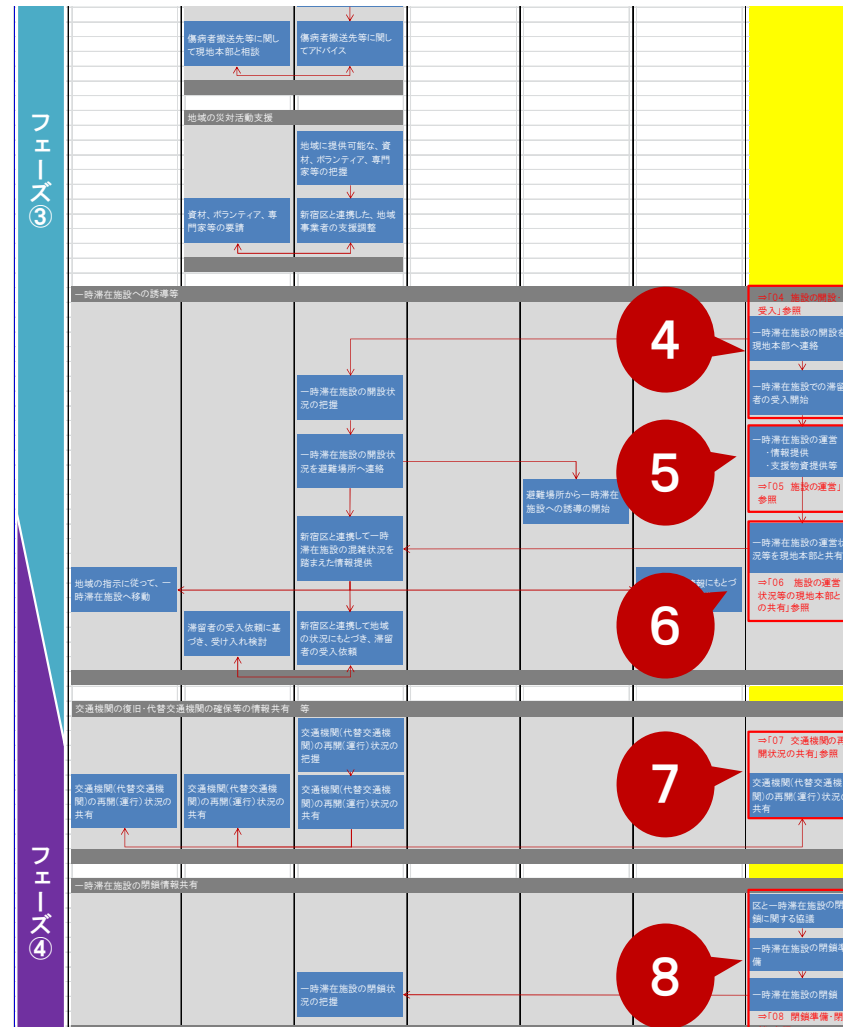
この位置に示されているのは、主にフェーズ②で必要な行動です。

この赤枠単位でマニュアルは構成されています。

5. マニュアルを構成する行動の順序について

全体構成では、便宜上必要になる「行動」が縦に並べてありますが、必ずしもこの順番に「行動」することを示しているものではありません。

行すべき事象が発生した際に、該当する「行動」を参考に活動してください。



6. マニュアルの「行動」の記載事項について

役割ごとに
手順が示さ
れています。

この「行動」
での役割毎
の手順が示
されていま
す。

その他に必要な情報や
注意点等が
記載されて
います。

局面	記載内容	新宿区・現地本部等	施設管理者	情報連絡係	受付係	支援物資管理係	安全係	その他
		・現地本部と施設の閉鎖について協議する。	・利用者に退出を依頼する。 ・必要に応じ他の一時滞在施設を案内する。 ・施設閉鎖の指示を行う。	・利用者に退出を依頼する。	・受入者数の署名や受入人数簿を用いて記録する。		・施設内の点検を行つた後に、状況を確認する。	

実施事項

手順

使用する帳票資器材

- ・一時滞在施設の閉鎖は原則、区と協議した上で決定する。
- ・閉鎖の条件(案)は以下の通りとする。 ※今後要検討
 - ①公共交通機関が復旧した場合(6L/Gは代替輸送手段が確保されている場合)
 - ②区と協議の上、施設の閉鎖が周辺地域に混乱を生じない場合
 - ③開設後3日経過した場合(3日以上経過した朝を過ぎる場合)
 - ④区から施設を開鎖するよう依頼があった場合
 - ⑤地震等の被害により施設内に滞在することが危険な状態が発生した場合)
 - ⑥施設利用者(受入帰宅困難者)がいなくなった場合

備考

この「行動」
の中で何を
実行するか
が記載され
ています。

この「行動」
で使用する
資器材や様
式が示され
ています。

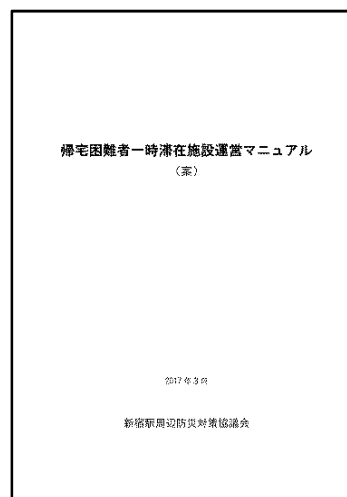
マニュアル、キット等の概要説明

1. 一時滞在施設運営マニュアルについて
2. **キットについて**
3. 帰宅困難者支援施設運営ゲームについて

1. 一時滞在施設開設キットについて

■ キットの概要

- 一時滞在施設の設営の支援が目的
- 一時滞在施設運営マニュアルをもとに、運営本部の立ち上げから帰宅困難者の受入、施設の閉鎖準備など、最低限必要な作業・備品を基本にパッケージ化



【施設管理者】
運営本部の立ち上げ

滞在施設の状況を管理するための本部を立ち上げます。

☐ ①本部の設置 **一時滞在施設 本部 Headquarters**
区から開設の依頼を受け、運営本部の設置場所を決定し、看板を掲げる。

☐ ②建物等の被害確認
施設管理者より建物の被害状況について報告を受け、現地本部、区に開設可否を報告する。

☐ ③担当係の招集
情報連絡係に各担当係メンバーの招集を指示する。

☐ ④開設手順の確認
作業チェックリストを貼り出し、施設開設の全体作業を確認する。

☐ ⑤組織図を作り、掲示する
組織図を作り、各活動係のリーダーを決め、活動部員を記載していく。

(裏面に続く)

手順書の例

内容物リスト

運営本部の立ち上げケースには次の資材が入っています。

①手順書
②各種看板
③作業確認チェックシート
④組織図
⑤ボードマーカー
⑥消せるボールペン
⑦ガムテープ

看板取付用吸盤



掲示物の例

帳票05 受入承諾書

受入承諾書

私は、「受入条件及び一時滞在施設利用ルール」に示す受入条件、利用ルールを承諾した上で、一時滞在施設を利用することを契約します。

(省名)	
氏名	
性別	
住所	
連絡先(電話)	
健康状態	(現在の状況) (持病やアレルギーの有無等)
スキル	(建築に関する知識の有無) (避難誘導、救急・救急スキルの有無) (業務に関するスキル(外国語への対応)の有無と資格の種類)

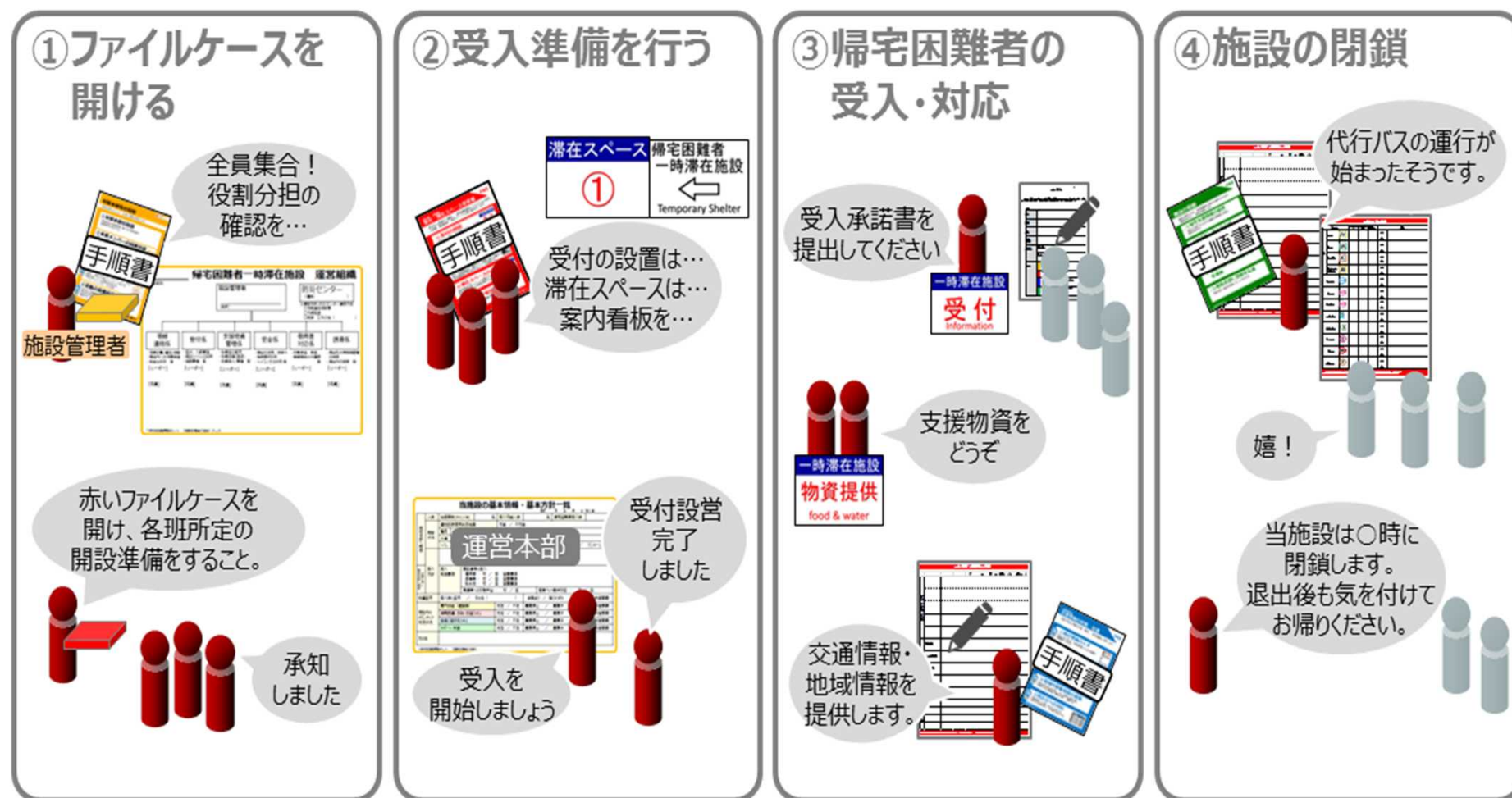
帳票類の例

2. 一時滞在施設開設キットの構成

項目	内容	
施設の周辺地図	地図（A0またはA1判）	
施設の平面図	平面図（A1判）	
一時滞在施設運営マニュアル	マニュアルをファイル綴じ	
作業チェックリスト	一時滞在施設の開設等の手順の一覧	
作業ケース ※作業の手順書と備品類（掲示物・看板、筆記用具、固定具、各種マニュアルなど）・帳票類（受入承諾書など）をパッケージ化	黄色	1. 施設管理者の役割
	赤色	2. 施設の利用計画
		3. 受付・滞在スペース等準備
		4. 情報収集・案内の準備
		5. 支援物資等の準備
	青色	6. 救護室の準備
		7. 帰宅困難者の受け入れ・災害情報の収集、伝達
	緑色	8. 物資の配布・傷病者の対応・安全安心の確保
		9. 施設の閉鎖準備

※本日の演習キットとして：手順書、施設の平面図、掲示物・看板のミニチュアを準備

3. 一時滞在施設開設キットの使用イメージ



マニュアル、キット等の概要説明

1. 行動指針、一時滞在施設運営マニュアルについて
2. キットについて
3. 帰宅困難者支援施設運営ゲームについて

1. 運営ゲームについて

【帰宅困難者支援施設運営ゲームについて】

- 帰宅困難者支援施設の運営体制等を検証するには、実際に帰宅困難者受入訓練を行うことが最も効果的です。しかし、帰宅困難者受入訓練を実施するには、周到な準備、多くの人々の協力、訓練時間と場所の確保等が必要となり、簡単に実施できるものではありません。
- 運営ゲームは、帰宅困難者支援施設(帰宅困難者一時滞在(待機)施設)の設置者、または設置を検討している方々をはじめとする多くの方々が、施設設置の是非や運営方法、運営において発生する課題について比較的手軽に検討することで施設運営を机上で疑似体験し、帰宅困難者問題に対する理解を深めて頂けるように、名古屋大学の廣井先生を中心に開発されたものです。
- 運営ゲームの手順や帰宅困難者の設定、イベントの内容については、東京都中央区内の事業所で実際に行われた帰宅困難者受入訓練を基に作成されています。

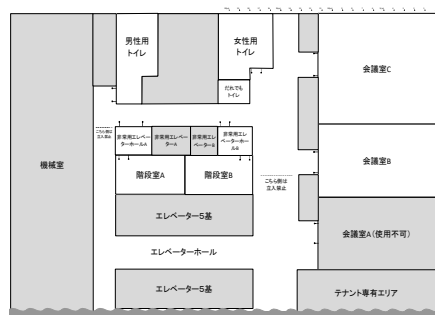
2. ゲームキットの構成

【キットの内容】

本運営ゲームには、主に次の4つのアイテムで構成されています（本日は3つのみ使用します。）

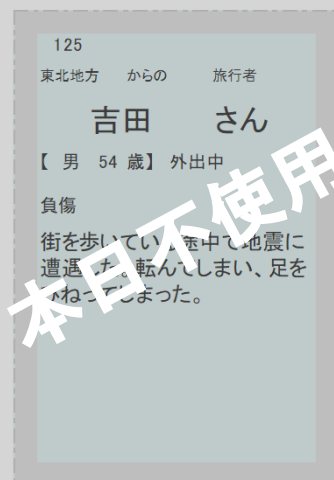
施設設定

主に、ファーストウェストビルの1/50図面と、資材・備蓄品のリストからなり、施設利用計画立案のベースとなります。（帰宅困難者および施設運営者の動線、滞在スペース等のレイアウトの計画、備蓄物資配布の計画等）



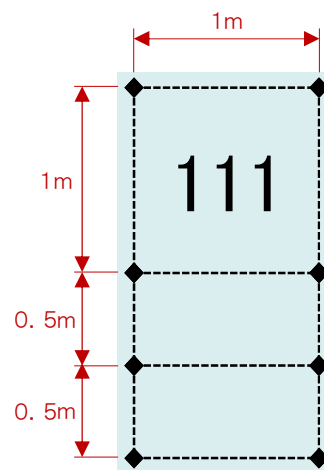
帰宅困難者カード

受け入れる帰宅困難者の様子（「属性」「名前」「居住地・勤務地」「年齢・性別・状況」「負傷・要援護の有無」「状況・行動」）について示したカードです。
また、イベントカードと対応する番号が振られています。カードが受け入れた帰宅困難者のリストとなります。



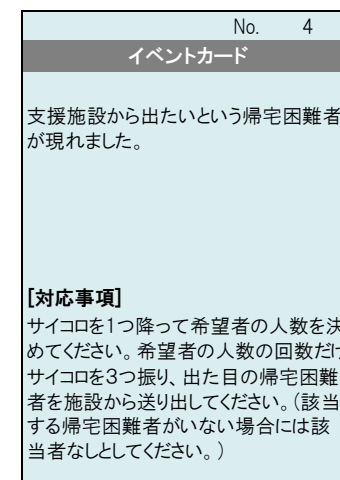
帰宅困難者コマ

施設に受け入れた帰宅困難者にどこで待機してもらうのかを検討するためのコマです。
帰宅困難者カードと対応した番号が振ってあります。
また、メモリが入っていますので、折ることで一人当たりどの程度のスペースを占拠しているか分かるようになっています。



イベントカード

帰宅困難者の受け入れ後に、施設内で発生する「イベント」を記載したカードです。
このカードをきってめくり、施設の運営方法や帰宅困難者等への対応方法を検討します。
複数グループで運営ゲームを実施する場合には、イベントカードを共通として、対応を比較・議論することも有効です。



2. ゲームキットの構成(補足:「帰宅困難者コマ」の配置)



1.6 m²/人



1.5m²/人



1.2 m²/人



1.08 m²/人

3. ゲーム実施の目的

- ① 一時滞在施設訓練のイメージトレーニング
- ② 一時滞在施設訓練で実際に使用する施設レイアウトの決定
 - ゲーム実施後の意見交換の場で、皆さまの検討結果から施設レイアウトを決定します。



2017年度講習会での検討結果の例

参加団体自己紹介 (1組織1分程度を目安)

**ご所属、本日のご参加者
自組織における一時滞在施設運営の課題 等**

ゲームの実施

1. 前提条件等
2. 図上演習① 一時滞在施設の開設準備
3. 図上演習② 一時滞在施設の運営

1. 検討の前提条件など（1/3）

・「帰宅困難者支援施設」とは

- 災害時には、買い物客、観光客、旅行客、通勤・通学中の人々などが、“身の寄せどころのない”帰宅困難者となってしまいます。
- 地域の小中学校は住民のための避難所となり、庁舎等は行政機関の災害対応の活動拠点となります。そのため、公共施設だけでは、帰宅困難者の“身の寄せどころ”が不足してしまいます。
- このような状況に対し、民間の施設（自社ビル、テナントビル、商業施設、集客施設など）において、施設管理者の善意で、災害時に帰宅困難者を受け入れることを予定している施設が「帰宅困難者支援施設」（以下「支援施設」という。）です。
- 支援施設では、従業員、ビル管理要員などが、役所と連携しながら、施設への受入、水・食料等の物資提供、鉄道の運行状況などの情報提供といった「帰宅困難者への支援」に対応されます。

・支援施設の運営の流れ



1. 検討の前提条件など (2/3)

・ 施設について(1/2)

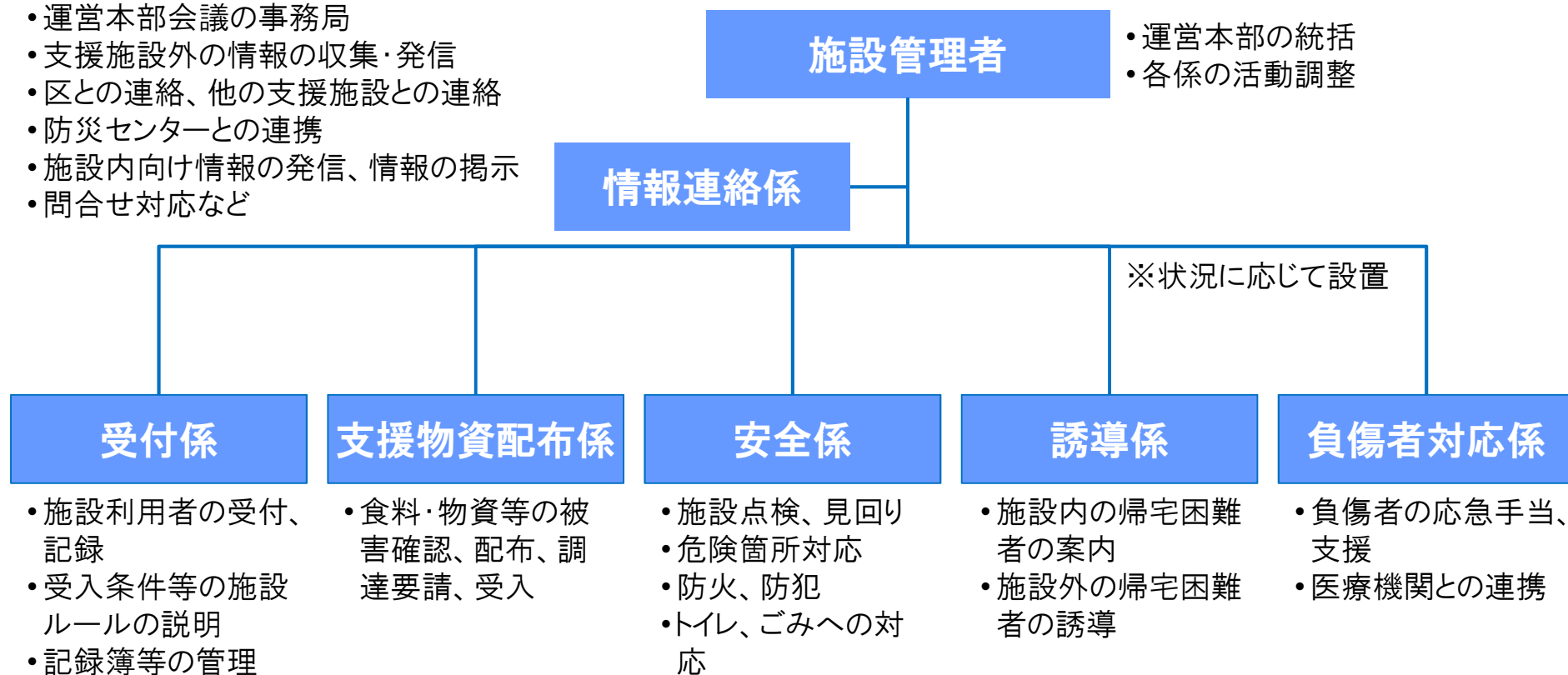
- 建物
 - ・ 新宿ファーストウェウトビル
- 支援施設
 - ・ 帰宅困難者受入の動線
 - 1階 通用口(防災センター側)から入館
 - マニュアル上、建物外部に受付を設置することになっている
 - ・ 受入スペース
 - 3階会議室Bおよび会議室C (合計床面積:約183m²)
 - 備品(ブルーシート、机、いす) ※一般的なブルーシートのサイズ:3.6×5.4m
 - ・ 備蓄品(帰宅困難者用)
 - 飲料水
 - 食料
 - 防災マット
 - ・ 情報関係
 - ホワイトボード 3台
 - 衛星電話 1台
 - ・ 非常用発電機 40時間稼働(供給先:受入スペース照明、トイレ、防災設備など)

1. 検討の前提条件など (3/3)

・施設について(2/2)

－ 運営体制

- ・運営本部会議の事務局
- ・支援施設外の情報の収集・発信
- ・区との連絡、他の支援施設との連絡
- ・防災センターとの連携
- ・施設内向け情報の発信、情報の掲示
- ・問合せ対応など



2. ゲーム上の被害想定

・ 想定シナリオ【地震発生から1時間後】（1/2）

項目	想定
地震	✓ 本日1時間前に地震発生。震源は大田区直下、地震の規模はM7.3、東京23区では震度6弱以上の激しい揺れ。 ✓ 区では震度6弱が観測された。
津波	✓ 津波高さは1m未満と小さく、東京湾沿岸部への影響はほとんどない。
鉄道	✓ 1都3県の鉄道各社は、全線で運転を見合わせている。 ✓ 都心部では、運転再開の見通しは立っていない。
ライフライン	✓ <u>都内の一部で</u>停電、断水が続いている。 ✓ 固定電話、携帯電話とも通話はつながりにくい。 ✓ 携帯メールは送信できるが、届くまでに時間がかかっている。 ✓ LINE、facebookなどのSNSはつながっている。

2. ゲーム上の被害想定

・ 想定シナリオ【地震発生から1時間後】 (2/2)

項目	想定
新宿ファーストウエストビル	✓ 区から一時滞在施設開設の依頼があり、準備中。 ✓ ビル周辺は、帰宅困難者であふれている。 ✓ ビル施設の開設・運営における人手不足が心配される。 ✓ ビル施設内の状況 ・ 上層階では天井ボードの一部が落下している。 ・ 固定していないコピー機やキャビネットが転倒している。 ・ 一部の照明のみ点灯している。 ・ エレベーター、エスカレーターは停止している。 ・ 空調は停止している。
現地本部	✓ 主要事業者が自事業所の初動対応を終え、工学院大学に参集 ✓ 現在、現地本部の設営が完了し、活動を始めたところ ✓ 新宿ファーストウエストビル等の、近隣施設の状況を把握していない。
新宿駅	✓ 駅施設の安全点検のため、利用客には一旦改札から退出してもらっている。駅員は、利用客の誘導や情報提供に追われている。 ✓ 駅側では、新宿ファーストウエストビル等、近隣施設の状況はわからない。

演習想定



新宿

<凡 例>



GeoSpace

震度分布図(首都直下地震、都心南部直下地震)

- 震度3以下
- 震度4
- 震度5弱
- 震度5強
- 震度6弱
- 震度6強

ゲームの実施

1. 前提条件等
2. 図上演習① 一時滞在施設の開設準備
3. 図上演習② 一時滞在施設の運営

1. ゲームの進め方 (1/4)

(1)役割分担を決める

**(2)受入基本方針を決め
レイアウトを検討する**

（1）役割分担

- ・ 運営ゲームで必要な作業は、概ね次のとおりです。
- ・ 特に一つの役割に特化せずに、グループ内で分担・情報共有しながら実施してください

施設管理者

ゲームを進行する上で、各担当への指示のほか、「イベント」への対応について、中心となって検討して施設としての対応方針を決める。

情報連絡係

イベントカードの内容をグループで共有する。

受付係

帰宅困難者カードをめくり、カードを並べる、束ねる等することで「名簿化」して、受け入れた帰宅困難者の管理と共有化をしてください。

支援物資配布係

配付した備蓄品や使用した資材等について、数量の管理を行う。

安全係

誘導係と連携して、受入スペース等における通路等の確保する。また、当初定めたレイアウトを基にゲームをスタートするが、ゲーム中にレイアウトの変更等の要否を検討し、必要に応じて変更する。

誘導係

帰宅困難者に対応した「帰宅困難者コマ」を安全係と連携して「受入スペース」に配置する。配置の際には一人当たりの広さを考慮する。

負傷者対応係

傷病者対応スペースの管理を行うとともに、負傷した帰宅困難者や要援護者への対応について検討する。

みんなで
実施

2. ゲームの進め方 (3/4)

(1) 役割分担を決める

(2) 受入基本方針を決め
レイアウトを検討する

2. ゲームの進め方 (4/4)

約 25分

(2) 受入基本方針を決め、マニュアルの内容も確かめながら、キットを配置し、レイアウトを検討してください。

(受入開始時の施設のレイアウト、動線、受入時に配布する備蓄品等)

- ・ レイアウト(随時変更可)
 - ①受付
 - ②受入場所(必要に応じて”対象別”)
 - ③受入前の待機スペース
 - ④備蓄品配付スペース
 - ⑤情報提供スペース
 - ⑥その他(立入禁止地区、閉鎖通路)等

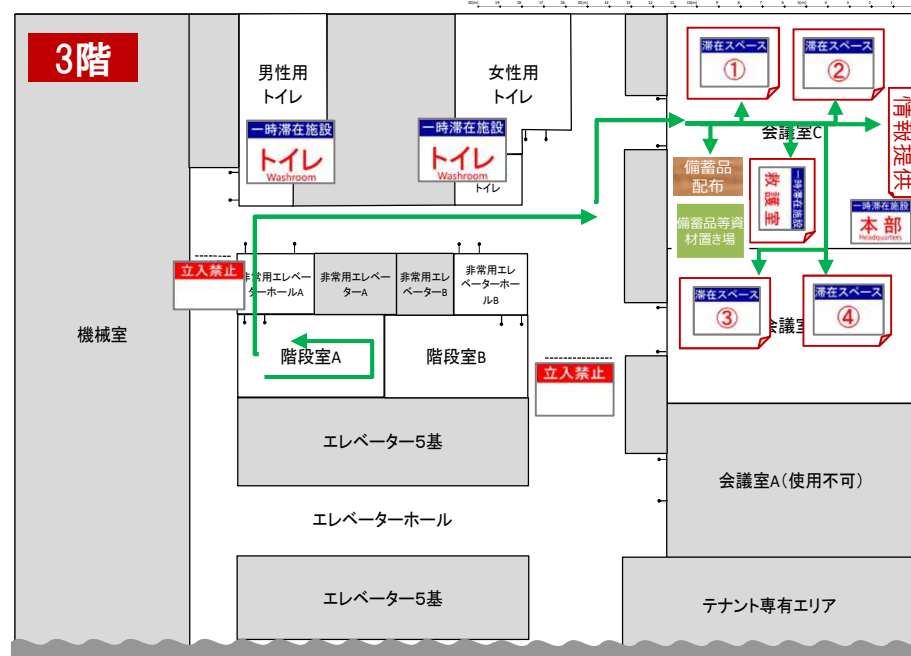
- ・ 動線

帰宅困難者の受け入れ・移動の動線

- ・ 受入時の配布備蓄品

受入時に配布する備蓄品を決める

- ・ その他



ゲームの実施

1. 前提条件等
2. 図上演習① 一時滞在施設の開設準備
3. 図上演習② 一時滞在施設の運営

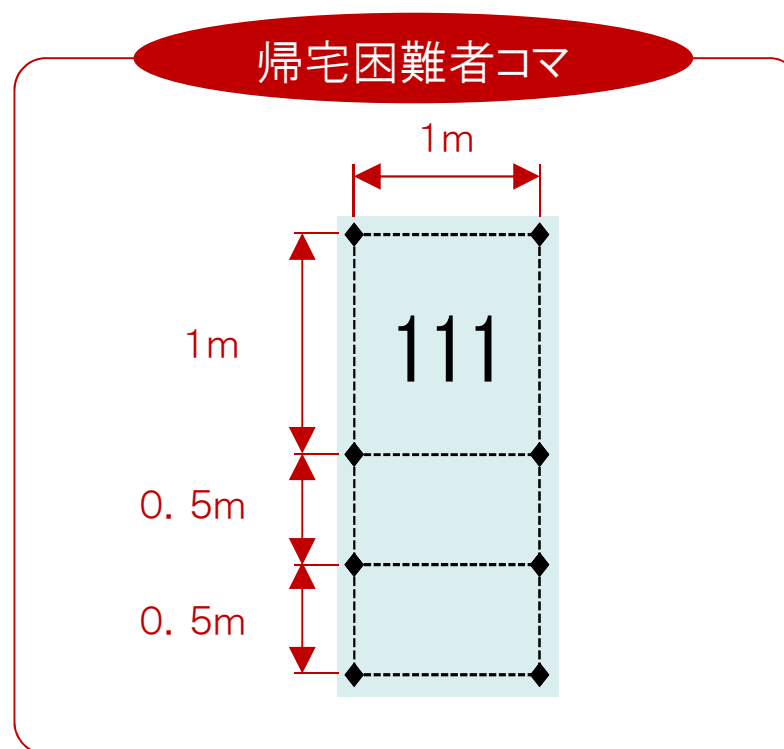
(3)帰宅困難者を受け入れる

(4)イベントへ対応する

(5)施設を閉鎖する

(3) 帰宅困難者を受け入れる。

- ・ 「**帰宅困難者コマ**」を施設内レイアウトに基づき配置して、何名くらい入るか、検討してください。
- ・ 1名あたりに割り当てる m^2 数に応じて、コマを折り曲げても構いません。
- ・ 通路の確保にも配慮してください。
- ・ レイアウトを変更しても構いません。



1. ゲームの進め方 (3/6)

(3)帰宅困難者を受け入れる

(4)イベントへ対応する

(5)施設を閉鎖する

(4) イベントへ対応する。

- ・ 進行担当が「**イベントカード**」をめくりますので、「対応事項」の内容を検討してください。(1イベント 約4～5分)

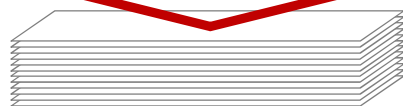
(注)進行担当がいなかった場合には各班でめくります。

- ・ 進行担当が対象者や対象人数を決めていますので、対象者を考慮して検討してください。

(注)進行担当がいなかった場合には、サイコロを振って該当者を決めます。該当者がいない場合には「該当者なし」とします。)



No. 1	No. 4	No. 7	No. 10	No. 13	No. 16
イベントカード	イベントカード	イベントカード	イベントカード	イベントカード	イベントカード
受け入れた帰宅困難者から質問です 「タバコはどこで吸えば良いですか？」	支援施設から出たいという帰宅困難者が現れました。	大きな余震が発生しました。おびえている帰宅困難者も多数いるようです。	受け入れた帰宅困難者から質問です 「ペースメーカーを入れているのですが、周りで携帯電話等をつかっているのが気になります。なんとかありませんか？」	受け入れた帰宅困難者同士で派手な喧嘩がはじまりました。なんとかしてください。	急な発熱を訴える帰宅困難者が発生しました。
【対応事項】 必要な対応を検討してください。	【対応事項】 サイコロを1つ降って希望者の人数を決めてください。希望者の人数の回数だけサイコロを3つ振り、出た目の帰宅困難者を施設から送り出してください。(該当する帰宅困難者がいない場合には該当者なしとしてください。)	【対応事項】 必要な対応を検討してください。	【対応事項】 必要な対応を検討してください。	【対応事項】 必要な対応を検討してください。	【対応事項】 サイコロを3つ振り、出た目の帰宅困難者を該当者として、必要な対策を検討してください。(該当する帰宅困難者がいない場合には該当者なしとしてください。)



1. ゲームの進め方 (5/6)

(3)帰宅困難者を受け入れる

(4)イベントへ対応する

(5)施設を閉鎖する

（5）施設を閉鎖する。

- ・ 翌朝になりましたので、施設の閉鎖に向けて、その時点で施設内にいる帰宅困難者への対応を検討してください。
- ・ 施設内にいる帰宅困難者への対応の検討が終わった時点で、施設を閉鎖します。（ゲーム終了です。）

■＜参考＞現在の状況

項目	想定
鉄道	✓ 1都3県の鉄道各社はのうち、一部で運行が再開されている模様。 ✓ 震度6弱以上の地域では、運転見合わせが続いている路線もある。 ✓ 代替交通手段（バス）の運行が始まっている。
ライフライン	✓ 都心部を中心に停電、断水が続いている。 ✓ 固定電話、携帯電話とも通話はつながりにくい。 ✓ 携帯メールは送信できるが、届くまでに時間がかかっている。 ✓ LINE、facebookなどのSNSはつながっている。

意見交換・質疑応答

- ・ 各チーム内で振り返り(レイアウトを中心に) …10分
 - ①修正・追加で反映したい点はあるか？
 - ②11/8に絶対押さえないポイント
- ・ 各チームレイアウトの発表 …10分
 - ①気を付けた点
 - ②11/8に絶対押さえないポイント
- ・ 11/8に使用するレイアウト案の決定 …10分



気づきの共有 質疑応答